

「骨寺通信」

第25号

本寺地区地域づくり
推進協議会会報

E-Mail

honedera@mx21.tiki.ne.jp

イコモス(国際記念物遺跡会議)

現地調査 ジャガス ウィーラシンハ氏

8月28日



「うんめがすと」で歓迎会



大師堂前で荘園景観を説明



景観保全農地整備を説明



「この風景は写真集や絵葉書などに出てくる景観のようだ」

皆様のご協力によりイコモスの現地調査が無事終わりました。

今回の調査は、政府が提出していた登録推薦書の記載内容を確認するものでしたが、調査員は世界遺産に相応しいかどうかに関する評価やコメントを一切言うてはならないという厳しい制約の中で行われました。

スリランカのイコモス国内委員のジャガスさん「この聖なる場所を守って来られた皆さんに敬意を表します」と述べられるとともに、敬虔な仏教徒であるジャガスさんは「お釈迦様の教えがあるから今の自分がある」という謙虚な心の持ち主のように感じられました。



これだけの人数でも半日かかりました



ボランティアに集まった皆さん

景観保全ボランティア

草刈り作業 8月19日



これは大変な作業だっちゃん～！

時折小雨が降る中、市職員、県職員、岩手大学、一般市民のボランティアの皆さんと地元の方皆さん総勢二百名による草刈り、草集め作業が早朝から行われました。

「イコモスの現地調査の前に」多くの人が一体となって支えるきっかけになれば」との思いから、ボランティアによる景観保全が取り組まれました。



多くのお母さん方も参加



結隊式の様子



佐藤武雄会長が御礼の挨拶



不動窟の竹を手送りで搬出



白山社の刈り払い作業

6月29日～7月1日の三日間、岩手教区隊140名の皆さんによる各史跡の刈り払い支援が行われました。隊では毎年各地で訓練として奉仕活動を行っています。

災害救援「ひのきしん隊」
(日之寄進)による史跡管理道の刈り払い



本寺中学校の生徒さんの鶏舞

ビオトープ(自然復元)フォーラム
inいわて2007
「一間骨寺荘園に見る 自然との共生」



講演に耳を傾ける参加者



景観保全や生態系について討論が行われた

9月1日、ビオトープフォーラムが本寺中学校を会場に四百名の参加で開催されました。達増知事、浅井市長の祝辞の後、知事、吉田先生、山脇先生の講演が行われ、その後、平塚先生の司会で広田先生、長谷川先生、佐藤勲さんが加わり討論が行われました。



質問攻めにあう吉田先生

◆ヨーロッパの先生方と吉田先生の案内
Winfried Schenk(ドイツ、ボン大学地理学研究所教授)
Hans-Rudolf Egli(スイス、ベルン大学地理学研究所教授)
Mauro Agnoletti(イタリア、フィレンツェ大学森林環境学教授)



あぜ道を歩きながら仕組みを説明

9月6日、国際シンポジウムのため来日されたヨーロッパの研究者三名が吉田先生の案内で骨寺村荘園を視察されました。スイスの先生は「この景観がこれまでなぜ守られてきたのですか」「ヨーロッパでは景観や国土の保全に對し非常に関心が高く、国民合意の上で国が手厚く保護しているが、日本の現状はどうか」などの質問をしていました。視察の途中、佐藤春吉さん宅で山菜など地元料理をいただきました。7日には市長へ表敬訪問の後、中尊寺を見学されました。